

幼稚園は子どもがはじめて出会う学校です。

2007年6月に学校教育法が改正され、学校教育は幼稚園から始まることが明記されました。また、幼稚園教育要領の改訂では、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続の重要性について示されています。

幼稚園では「遊び」を重要な学びの場として取り組んでいます。子どもは楽しく遊ぶことで、その遊びの中から様々なことを学び、創造力を高め、感性を豊かにし、基本的な生活習慣を身に付けます。幼稚園の遊びの中には、ことばや数、社会性や自然環境が含まれ、小学校以降の学習の基礎を培います。

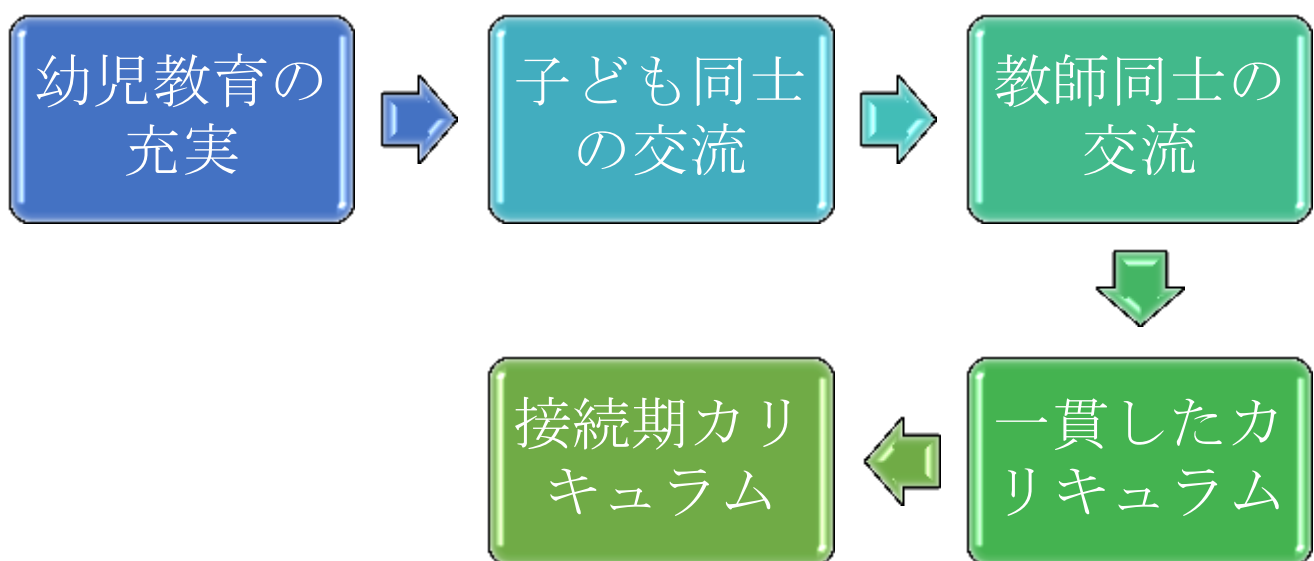
しかし、「小1プロブレム」の言葉に代表されるように、小学校1年生の入学直後の課題が問題になっています。授業中立ち歩く、話を聞かない、おしゃべりが多い、落ち着きがない、床に寝そべる、担任の先生の指示通り行動しない等の状況が入学式後数ヶ月経っても続いているような状況のことです。

幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続は今後の幼稚園教育に欠かせない取り組みですが、小学校教育の先取りをすることではありません。幼稚園は幼児らしい活動をしながらか、そこに出現してくる次の時期へ伸びようとする力を育てるところです。

本園では、小学校への円滑な接続のためにまず取り組むべきことは、幼児教育そのものの充実を図ることだと考えています。

そこで、幼稚園教育要領で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示された10項目の中から5つを重点化し、特に意識して幼稚園での生活全体を通して育てていきます。

今後、小樽幼稚園では、次に示す流れ・内容で小学校との接続の充実に取り組みます。



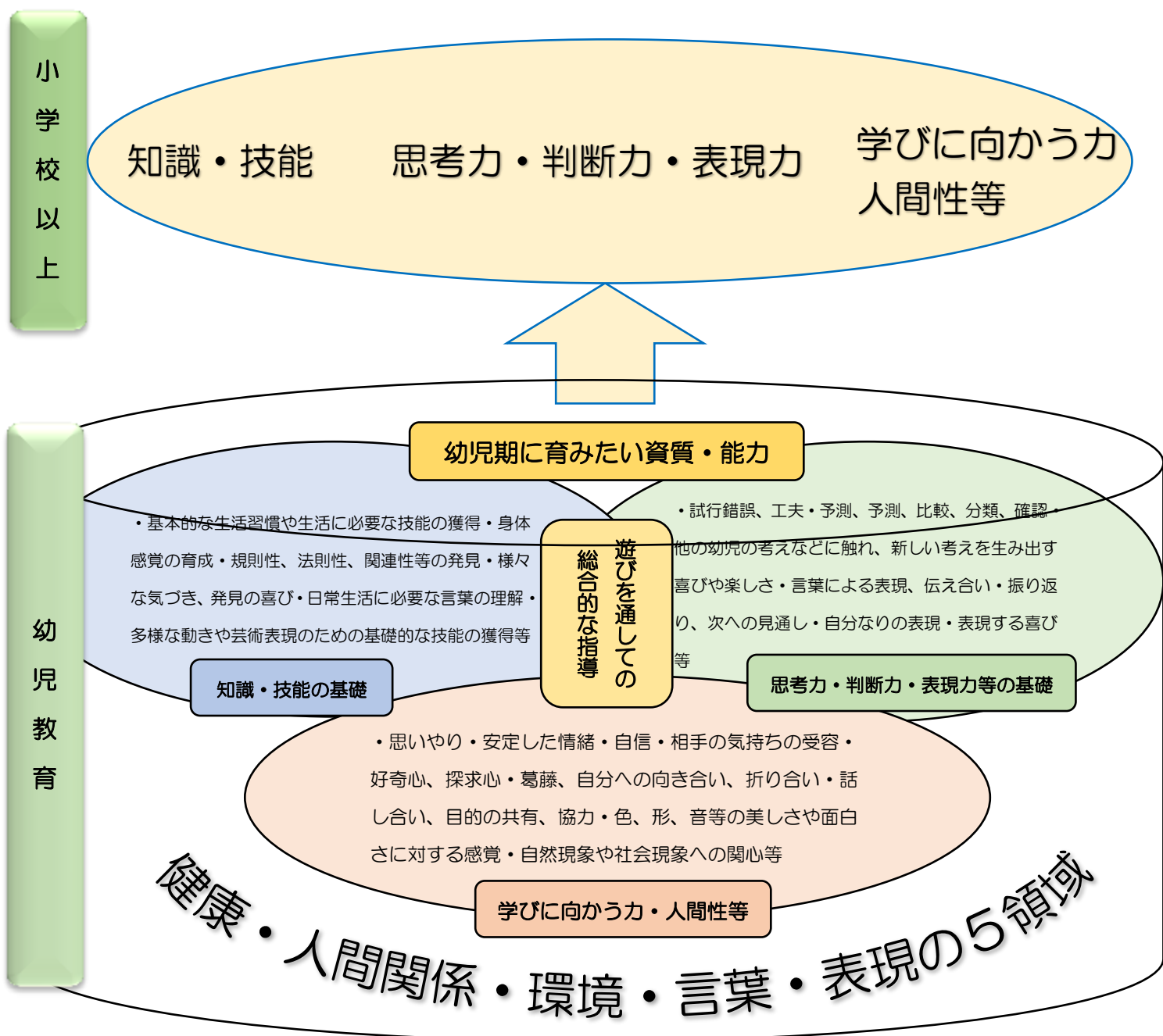
小学校につなげます

2017年3月、「幼稚園教育要領」の改訂により、子どもに育みたい資質能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の三つの柱が、幼児期から18歳までを見通して系統的に示されました。

幼児教育においては、これら三つの資質能力を、遊びを通して総合的な指導を行う中で育みますが、小学校以降では、教科等の指導で育むことになります。

遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は内容や進め方が大きく異なります。これまで大切にしてきた幼小連携の視点に加え、幼児期の学びを児童期につないでいくことが、これまで以上に求められています。

幼児教育から小学校への接続を円滑にするということは、小学校教育の先取りをすることではありません。幼児教育においては、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うこと、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要になります。



【幼児期において育みたい資質・能力】

教育を通して子どもが身に付けようとする事柄の中核を資質・能力と呼びます。

幼児教育において具体的には「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」が育みたい資質・能力となります。

<p>「知識・技能の基礎」 遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、幼児が自ら感じたり、気づいたり、分かったりできるようになったりすること。</p>	<p>【キーワード】 気づく できるようになる</p>
<p>「思考力・判断力・表現力等の基礎」 遊びや生活の中で、気づいたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること。</p>	<p>【キーワード】 試す 工夫する</p>
<p>「学びに向かう力・人間性等」 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること。</p>	<p>【キーワード】 ねばり強く取り組む 挑戦する</p>

幼児教育において育みたい資質・能力は、何か特定の活動をすれば必ず育まれるというものではありません。一つの活動の中にも一人一人異なる学びがありますし、様々な遊びを通して一つの学びが深まっていくこともたくさんあります。遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育んでいきます。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

この度の幼稚園要領の改訂により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示されました。5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿です。

この姿は到達すべき目標ではありませんし、個別に取り出されて指導するものでもありません。また、個人差が大きいものでもあります。教師は遊びの中で幼児が発達していく姿を、この「10の姿」を念頭において捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られる状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導の際に考慮します。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑥思考力の芽生え |
| ②自立心 | ⑦自然との関わり・生命尊重 |
| ③協同性 | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑨言葉による伝え合い |
| ⑤社会生活とのかかわり | ⑩豊かな感性と表現 |

【小樽幼稚園で小学校に向けて大切にしたい5つの姿】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示された10項目のどの姿も等しく大切に育てていきたいものですが、小樽幼稚園の教育目標と子どもたちの現状を考え合わせ、特に5つを重点化しました。

入園から卒園までを見通し、保育計画の中に盛り込み、特に意識して幼稚園での生活全体を通して育むことにより、小学校生活のスタートがより円滑に、充実したものになるようにと考えています。

小学校につなげる5つの重点

聞く力・話す力を身に付けよう
楽しく体を動かそう
力を合わせよう
決まりを守って生活しよう
数に親しもう

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑥思考力の芽生え |
| ②自立心 | ⑦自然との関わり・生命尊重 |
| ③協同性 | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑨言葉による伝え合い |
| ⑤社会生活とのかかわり | ⑩豊かな感性と表現 |

幼児教育において育みたい資質・能力

知識・技能の基礎 思考力・判断力・表現力の基礎 学びに向かう力
人間性等

<聞く力・話す力を身につけよう>・・・「言葉による伝え合い」

幼児期に豊かな言葉に触れ、言葉による伝え合いを重ねることは、小学校の生活や学習において、友だちと互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながっていきます。

＜楽しく体を動かそう＞・・・「健康な心と体」

幼児は、自己を十分に発揮して遊びや生活を楽しむ中で、体を動かす気持ちよさを感じたり、生活に必要な習慣や態度を身に付けていきます。こうした積み重ねを通して、自分のやりたいことに向かって、繰り返し挑戦したり諸感覚を働かせ体を思いっきり使って活動するなど、遊びや生活に見通しをもって自律的に行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになります。

こうした幼児期の活動は、小学校生活において、時間割を含めた生活の流れが分かるようになると、次の活動を考えて準備をしたりするなどの見通しをもって行動したり、安全に気を付けて登下校しようとする姿につながります。また、自ら体を動かして遊ぶ楽しさは、小学校の学習における運動遊びや、休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごすことにつながり、様々な活動を十分に楽しんだ経験は、小学校生活の様々な場面において伸び伸びと行動する力を育てていきます。

＜力を合わせよう＞・・・「協同性」

幼児は、友だちと関わる中で、様々な出来事を通して、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しいなどの多様な感情体験を味わい、友だちとの関わりを深めていきます。その中で互いの思いや考えなどを共有し、次第に共通の目的をもつようになります。その目的の実現に向けて、考えたことを相手にわかるように伝えながら、工夫したり、協力したりし、充実感をもって幼児同士でやり遂げるようになります。幼児期に育まれた協同性は、小学校における学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、友だちと協力して生活したり学び合ったりする姿につながっていきます。

＜決まりを守って生活しよう＞・・・「道徳性・規範意識の芽生え」

幼児は、友だちと様々な体験を重ねることを通して人間関係が深まる中で、決まりを守る必要性がわかり、友だちと一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、決まりをつくったり、守ったりするようになります。単に決まりを守らせることだけでなく、必要性を理解したうえで、守ろうとする気持ちを持たせることが大切です。このような経験は、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、生活上の決まりを理解し、守ろうとする力の基盤になっていきます。

＜数に親しもう＞・・・「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」

幼児期における数量に関する指導は、確実に数を数えられたり、正確に計算したりすることを目指すものではありません。幼児期に大切にしたいことは、遊びや生活の中で、必要感をもって、多い少ないを比べるために物を数えたり、長さや広さの量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりすることなどを通して、数量や図形への興味や関心を深め、感覚を豊かに磨いていくことです。このような感覚が、小学校における学習の生きた基盤となります。単に正確な知識を獲得することを目的とするのではなく、それぞれの場面で、活動の広がりや深まりに応じて数量に親しめるよう、工夫しながら環境を整えることが大切です。